関係各位

令和８年１０月吉日

愛知県防具付空手道連盟事務局

第１７回 西日本防具付空手道選手権大会のご案内
「第６５回 全国防具付空手道選手権大会愛知県強化選手（代表候補）選抜大会」

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、全日本空手道連盟錬武会主催の全国大会愛知・岐阜強化選手選抜を兼ねた大会を開催することとなりましたのでご案内申し上げます。
関係者の皆様のご協力並びに選手の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

敬具

記

第１７回 西日本防具付空手道選手権大会
（第６５回全国防具付空手道選手権大会愛知･岐阜強化選手選抜大会）

開催日時：令和９年２月２１日（日）　**※各試合開始時間は出場者確定後にご案内します。**
場所　　：志段味スポーツランド　競技場アリーナ（名古屋市守山区桜坂五丁目105番地）
主催　　：愛知県防具付空手道連盟
申込締切：**「参加申込書」　令和８年１２月　４日（金）必着（メール）**
　　「参加費」振込　令和９年　１月２９日（金）必着（振込）
ご注意　：団体代表者及び事務担当・参加申込責任者の方は、個別参加申込書に記入漏れ無きよう十分に確認してメール送信（メール対応が不可な場合は郵送）して頂きますようお願いいたします。

送付書類
１．本紙（大会ご案内）　１部
２．第１７回西日本防具付空手道選手権大会出場選手募集要項　１部（４枚）
３．大会競技規定　１部
４．参加申込書各種　１部
５．審判・スタッフ募集　１部
６．第１７回大会協賛広告のお願い　１部
７．【別紙１】注意事項等　１部

＊用紙が足りない場合は、お手数をおかけしますがコピーしてご使用をお願いします。

《大会事務局》〒453-0844　名古屋市中村区小鴨町６　　事務局長/河合努
TEL：090-8457-9055　メール：abkf_ s @yahoo. co. jp

STORONGMANCUP（ストロングマン杯／愛知県知事賞）
第17回 西日本防具付空手道選手権大会出場選手募集要項
（第65回 全国防具付空手道選手権大会愛知県強化選手選抜大会）

1.主　催　愛知県防具付空手道連盟
2.主　管　全日本空手道連盟錬武会愛知県本部
3.共　催　全日本空手道連盟錬武会
4.後　援　愛知県　（公財）愛知県スポーツ協会　（公財）名古屋市教育スポーツ協会
東海テレビ放送（株）　中京テレビ放送（株）　中日新聞社　　愛知県教育委員会
5.日　時　令和9年2月21日（日）　9時集合　9時30分開始　17時終了
6.会　場　名古屋市守山区桜坂五丁目105番地
志段味スポーツランド　競技場（アリーナ）　TEL：052-736-3766

7.競技種目・部門

① 防具付組手個人競技（1本勝負）

A）キッズ　　G）小学5・6年生　女子　　M）高校生　男子
B）小学1・2年生　男子　　H）中学1年生　男子　　N）一般有級　男子
C）小学1・2年生　女子　　I）中学2・3年生　男子　　O）一般シニア　男子（45歳以上）
D）小学3・4年生　男子　　J）中学1年生　女子　　P）一般有段　男子
E）小学3・4年生　女子　　K）中学2・3年生　女子
F）小学5・6年生　男子　　L）高校生・一般　女子

※上位クラスへの出場は認める（例：一般有級者が一般有段の部に出場、女子が男子の部へ等）
※各クラス、エントリー選手数によっては男女混合、または不成立の場合あり
※中学1年生クラスが申込人数により不成立の場合、従来通り1～3 年生混合の中学生クラスとなります。
中学生クラスのみとなった場合でも参加可の方は申込書出場クラス欄に「◎」を記入下さい。
また、一般有級、シニアの参加希望者で一般有段と統合されても参加する場合は◎を記入ください。

② 形個人競技（中学生以下とシニアは男女混合）

Q）小学1・2年生　　T）中学生　　W）シニア（45歳以上）
R）小学3・4年生　　U）高校生・一般　男子
S）小学5・6年生　　V）高校生・一般　女子

③ 防具付組手団体競技

X）3人1チーム（先鋒：小学生、中堅：中学生、大将：高校生以上）
※1団体1チーム、最少決行数2チームで成立
※中堅までに2勝し勝負が決した場合には、大将戦は行わない
※先鋒、中堅は引き分けあり。大将戦のみ延長戦（先取り）ありで再延長戦は無し（判定）とする。

8.競技規定

全日本防具付空手道競技規定・審判規定に基づき、一部愛知県防具付空手道連盟の申し合わせによる。
（㊟キッズ：顔面部への攻撃有りとする。）

9.競技規定の補足事項

◆服装について　組手・形とも全クラス共通。男子のアンダーシャツ着用は不可。着用する場合は個別対応とし、事前にコート長に許可をとること。

◆**組手防具につきましては貸し出し可能（有償）ですが、貸し出し数が多い場合は各団体内での使いまわしをお願いする場合があります。試合時に使用防具が無い場合は失格となりますのでご注意下さい。**但し、組手に初参加する団体へは防具の無償貸し出しを行います。

◆組手防具について（**※規定とは一部異なりますのでご注意ください**）

クラス	面	胴	拳サポーター（小手）	足サポーター	ファールカップ
キッズ	スーパーセーフ面 （または同等面）	主催者用意	ストロングマン専用グローブ またはパンチンググローブ等	任意・布製	不要
小学1・2年生	スーパーセーフ面 （または同等面） またはストロングマン	主催者用意	ストロングマン専用グローブ またはパンチンググローブ等	任意・布製	不要
小学3・4年生	ストロングマン （旧面不可）	主催者用意	ストロングマン専用グローブ またはパンチンググローブ等	任意・布製	任意
小学5年生以上	ストロングマン （旧面不可）	主催者用意	ストロングマン専用グローブ またはパンチンググローブ等	任意・布製	義務

※拳サポーターは、**指の出るものは不可。** ただし内側に軍手等のインナー使用の場合は可。（キッズを除く）
※胴は大会にて準備したものを使用する。（その他の使用は不可）
※マウスピースは推奨・任意とする。

◆形について
・中学生以上の部は全て点数制。小学生の部は全て旗判定とする。
・中学生の部、高校・一般の部の決勝は予選上位4名にて順位を決定し、予選と決勝は異なる形を演武すること。 ただし4名以下の場合は予選を行わない。
・点数制のクラスは4位を敢闘賞とする。
※形競技については一部愛知県防具付空手道選手権大会協議規定（02 版）と異なります。

◆形試合でのメガネの使用は不可であるが、**必要な場合は個別にコート長に事前許可をとる**こと。
◆アクセサリーの使用は不可。（意匠性のあるネイル等も含む）
◆マスクの着用は任意、気合は有り。
◆形試合では息吹以外の過剰な効果音的な呼吸音および必用以上に道着を鳴らす行為は減点対象となる。

10.表　彰

◆ストロングマン杯 ： 組手高校生男子、一般有級男子及び一般有段男子の各クラス優勝者による勝者
◆4名以下のクラス ： 優勝者のみ（1名）
◆5名以上15名以下のクラス ： 準優勝者まで（2名）
◆16名以上のクラス ： 組手は3位まで（4名）／ 形は3位まで（4名）：得点制クラスは敢闘賞を含む
※その他、形・組手共に同年度の全国防具付空手道選手権大会に向けた強化選手を規定の選考方法により決定する。

11.参加費

期日までの申し込み	オープン参加(当日申込み　各クラス2名まで)
◆1種目出場者	◆1種目出場者
中学生以下 3,000 円	中学生以下 4,000 円
高校生以上 4,000 円	高校生以上 5,000 円
◆2種目出場者	◆2種目出場者
中学生以下 4,000 円	中学生以下 5,000 円
高校生以上 5,000 円	高校生以上 6,000 円
◆団体競技	◆団体競技
1チーム 5,000 円	1チーム 6,000 円
	※オープン参加は出場参加団体からも可

※パンフレット、記念品含む。

※**参加選手及び保護者の昼食は各自でご用意ください。**ゴミは各自でお持ち帰り下さい。

※役員、審判及びスタッフの昼食は弁当を準備致します。

12.参加資格

西日本エリアの団体(西日本エリアに本部がある団体はエリア外の支部所属選手も可)および錬武会加盟友好団体。

13.申し込み(各会派でまとめて申し込み下さい)

① **大会事務局へデータ送信**(不可な場合は郵送)

・参加選手申込一覧

・審判、スタッフ募集用紙

・協賛広告原稿

(大会事務局) メール:abkf_s@yahoo.co.jp

郵　送:〒453-0844　名古屋市中村区小鴨町6

愛知県防具付空手道連盟　事務局長　河合努

ＴＥＬ:090-8457-9055

申込期限　令和　8 年 12 月　4 日(金)厳守

② 振込先

＜ゆうちょ銀行＞

記号 12120　　種類　普通　　口座番号92291681

名義人　　愛知県防具付空手道連盟

※他金融機関(銀行)からの振込は

店名　二一八(よみかた　ニイチハチ)

店番　218　　普通預金　　口座番号9229168

振込期限　令和　8 年 12 月　25 日(金)

14.広告・協賛金

1／4面のみ　1万円

選手への負担を軽減し連盟の活動費に充足します。よろしくお願い致します。

15.その他

◆開催中、負傷した場合などは各団体加入のスポーツ保険で対処して頂き、主催者は出来るだけの応急処置をしますが、責任は一切負いません。

◆一度納めた出場費はいかなる理由があっても返金致しません。 申込みクラスが不成立となった場合は返金致します。

西日本防具付空手道選手権大会競技規定

全日本防具付空手道の競技規定・審判規定に準ずるが、一部愛知県防具付空手道連盟（以下、ＡＢＫＦ）の申し合わせによるものとする。（**ゴシック文字**はＡＢＫＦ申し合わせ箇所）

≪ 組手競技 ≫

選手服装
- 男子はインナー着用不可、女子は白無地のＴシャツ（**ただし個別事情による着用の場合、大会審判長の承認を得る**）
- 上着の袖の長さは手首まで、袖まくり禁止
- ズボンの長さは踝が出るもの、裾まくり禁止
- 所属団体表示マーク等は左胸もしくは左上腕部に限る（**背中等他の部分に団体名が記載されているものは、全国大会予選となる当大会ではこの限りではない。ただし全国大会出場においては規定遵守すること**）
- 規定違反の服装は、これを補正する時間として１分間を認める

審判員服装
- 長袖の白Ｙシャツ（上着は黒又は濃紺のブレザー）
- ネクタイピン等金属類無し、指定のネクタイ
- 折り返し無しの黒又は濃紺のズボン
- 指定の白シューズ
- 笛は白

※ただし、審判服装については当面任意とする。

審判員　５審（３審）制とする。（主審１名　副審４名（２名）　監査１名の６人（４人）制）

試合形式　競技は１本勝負。トーナメント制とし、赤　白　に分かれて勝敗を決する。

防具

	面	胴	拳サポーター	足サポーター	ファールカップ
幼児	**スーパーセーフ同等面**	**主催者用意**	義務・布製	任意(布製)	不要
小学１・２年生	ストロングマン面 or **スーパーセーフ同等面**	**主催者用意**	ストロングマン専用 or **パンチンググローブ等**	任意(布製)	不要
小学３・４年生	ストロングマン面	**主催者用意**	ストロングマン専用 or **パンチンググローブ等**	任意(布製)	**推奨**
小学５年生以上	ストロングマン面	**主催者用意**	ストロングマン専用 or **パンチンググローブ等**	任意(布製)	義務（未使用失格）

※胴については大会準備胴のみとし、その他の胴は不可とする。　**※防具については全て男女共通**

※パンチンググローブは、指の出るものは使用不可。

試合時間

個人戦（フルタイム制）		団体戦（フルタイム制）	
小学生以下	１分	先鋒	１分
中学生	１分 30 秒	中堅	１分
高校生・一般	２分	大将	１分

※団体戦は、中堅戦までの結果で団体勝敗が確定した場合、大将戦は行わない。

勝敗の決定と延長戦

準決勝までの本戦	（０－０）⇒　判定※1	ペナルティーは加味されない
	（１－０）⇒　技ありの方が勝ち※1	
	（１－１）⇒　判定※1	ペナルティーは加味されない
全ての本戦	（２－０）⇒　１本先取したほうが勝ち	技あり２回で１本勝ち
決勝戦の本戦 ストロングマン杯	（０－０）、（１－１）⇒　延長戦１分間 延長戦　⇒　技あり先取りまたは判定	本戦のペナルティーは延長戦に持ち越すが判定には加味しない
団体戦（個人勝敗）	同ポイント　⇒　引き分け	引き分けコールし、判定はしない。
団体戦の代表戦※2	同ポイント　⇒　判定※1	ペナルティーは加味されない

※１　引き分けの場合、引き分けコールは行わずに勝敗判定をとる。また、ポイント差がある場合も判定は行わずに勝者コールする。

※２　団体戦で引き分けの場合、先鋒にて代表戦を行って勝敗を決める。

勝敗または１本の判定

軽い技は無効／攻撃部位：①頭部（後頭部を除く）　②顔面部　③胸部　④腹部　⑤上半身両側部

1)　正確、有効で威力ある突き、打ち(肘打ちは除く)、蹴り(膝蹴りは除く)が定められた部位に決まった場合を１本とする。また、「１本」に満たない有効技を「技あり」とし、技ありを２回合わせて「１本」とする。

2)　正しい姿勢、気迫、残心、適正な間合い、正確な攻撃部位の把握等の諸条件を充たしていること。

3)　次の場合は前項を充たさなくても「１本」とできる。

①　相手の体勢を崩した直後の技

②　相手の出合いを狙った技

③　連続技

④　上段蹴り等高度な技術を要する技

4)　次の場合は有効とする。

①　競技時間終了と同時に決まった技

②　攻撃した競技者が競技場内で決め、攻撃された競技者が競技場外に出た場合、技は有効、他方は場外とする。

5)　判定の優先順位基準

①　手数

②　技ありには不十分であるがそれに近い技の数（高度な技）

③　気迫（気合）、闘争心、防御能力の優劣

懲罰　　全日本空手道連盟錬武会の試合規定に準ずる。

１回目	２回目	３回目	４回目
忠告	警告	反則注意	反則
相手に加点無し		相手に技あり１P	相手に技あり２P
・軽微な反則	・既に忠告有り、その後の軽微な反則	・既に警告有り、その後の軽微な反則 ・重度の反則	・既に反則注意有り、その後の反則

反則のカテゴリーは「場外」及び「場外以外の反則（禁止事項及び無防備）」の 2 種とし、それぞれ各々で反則ポイントを加算する。

禁止事項	・防具を着用していない背面部・後頭部・股間部への攻撃、腕部・脚部（下段蹴り）への攻撃 ・関節部・足の甲への攻撃（但し、有効技に繋がる足払いは除く） ・頭部での攻撃、肘打ち・膝蹴り・投げ技掴みかかり・組み打ち・暴力的体当たりなど危険な行為があった場合 ・倒れた相手選手へ直接打撃（突き、蹴り、打ち） **・執拗な上段攻撃には警告を発する** ・得点の多い選手が逃げ回る行為が認められた場合
無防備	・技をかけた後、後ろ向きとなり防御を解く行為 ・「やめ」の宣告がないにも関わらず、自己判断で競技を中断して警戒を解く行為
場外	・故意に場外へ出て、相手に得点の機会を与えない ・片足又は両足が場外に出た場合（防戦一方の後退や退避） ・攻防中に場外に出た場合は、開始線に戻って継続する（反則とはならない）

その他細則

① 組手競技における票決権　**主審 1.0 点**、副審 1.0 点

② **副審旗 2 本の際、主審が認めない場合は止めをかけて協議（主審、副審、監査）を行う（3 審制の場合）**

③ 主審が有効打を認め、副審 2 人が「取りません」の意思表示をしない場合、監査と協議して判断する（3 審制の場合）

④ 返し技は取らない

⑤ **強打を技ありとするが、小学生以下の力の弱いクラスは、安全性を重視して正確さで有効打を判定する**

⑥ 蹴った後にバランスを崩した場合、その技（蹴り）は技ありとしない

⑦ 突きについて、残心が無い場合は技ありとしない

⑧ 外部の応援が目に余る場合、選手にペナルティーを科す

【上段突き】

① 刻み突き、順突きの場合、逆突きと同じような腰の入れ方を求めすぎない（技の完成度・相手の様子（ダメージ）等を見て有効技を判断する）

② 腰が高めでも腰が入っていれば有効技とする（棒立ちはダメ）

③ 残心が無いものや姿勢が粗雑なものは、タイミングが良くても取らない（例：棒立ちのままの技、打ち流しの技、下がりながら打った技や崩れながら打った技）（打ってから下がるのはＯＫ）

④ 技ありにならない上段突きの執拗な連打があった場合、試合を止めて仕切りなおす。
相手にダメージがあった場合は、技の質により、技ありとするか、相手の無防備を取る。

【上段回し蹴り】

① 面の部分は側頭部にクリーンヒットでなくても有効技とする（首付近・顎付近も可）。

② 面の表面をかするような技は取らない。

③　弱い蹴り、軽い蹴りは取らない。
④　強い蹴り（頭が振る）、完成度の高い蹴りは「一本」、「一本」に満たない場合は「技あり」とする。
⑤　相手が頭を下げた時に顔面等に当たった技は有効技とする。

【その他、上段技】
①　上段前蹴り、刻み突き　⇒　有効
②　アッパー（上段下突き）⇒　禁止
③　バックブロー（振り鉄槌）⇒　有効。但し正確さを重視し、単なる振り回しでの打撃は無効。
④　フック（上段横突き、上段回し打ち）⇒　狙ったヒットは有効。質によっては反則となる場合がある。残心がないものは無効。
⑤　猫パンチ（通称）は無効。

【中段回し蹴り】
手のガードはあるが、同時に胴の部分にも当たっている場合は有効技（強打に限る）とする。

【下段回し蹴り】
低年齢で足が上がらないなど故意でない場合は、低年齢であることを考慮し試合を止めて注意する。但し、改善がない場合は軽微な反則行為として扱う。

【技の強さ等】
「不十分」、「技あり」、「一本」の判断は下記とする。
①　そのクラスの選手年齢を考慮する。
②　危険を避けるための理由から判断（例えば、防御はしているが、強打のために十分防御できていない場合、打撃を有効技として取らずに試合を続けると、強打による危険性が高まる等）。
③　相手のダメージ、様子（不意打ち、無防備、頭が振れる、効いていると判断される場合）。
但し、気迫や力が弱いが、良いタイミングで正確に当てている場合、技ありとする場合あり。
④　技の完成度は低いが、相手が無防備で明らかにダメージがある場合、技ありの場合あり。
⑤　「面がない試合だとしたら当たってない技」は取らない。
⑥　気合（声）はなくても有効打はポイントとなる。

【崩し・転倒等】
①　スリップ等、相手の技によらない転倒の場合、主審がすぐに止める。
②　スリップ等で転倒した相手への攻撃は無効（攻撃の前に主審が止める）。
③　技を出す時に自分で転倒した場合、その時に出された技は無効。
④　**相手を足払いで崩してから 2 秒以内の寸止めの技は「一本」。**但し、背足での足払いは不可。
⑤　足払いの後、次の技に繋ぐこと。足払いのみの場合、軽微な反則行為とする。

団体戦
引き分けあり（延長戦はなし）。
先鋒・中堅で勝負が決定した場合（２対０）大将戦は中止。大将戦までの結果が引き分けの場合、代表戦は小学生（先鋒）が行う。

代表選は引分け無し。引き分けの場合は旗判定により勝敗を決める（延長戦はなし）。

競技の流れ

- 選手の呼び出し後、コート両側に立った選手のゼッケンを確認する。
- 主審は立礼後、コート内に入り所定の位置に立つ。
- 主審は選手を開始線に誘導する。（選手Ａ・選手Ｂはコート外で立礼し、コート内の開始線に立つ）
- 選手は互いに立礼（宣言しない）（審判に礼なしで）後、自然体にて構える。

主審　「勝負１本始め」　結び立ちで宣告
「止め」　右出しを踏み出し、頭上より胸部前方に右手刀を振り下ろす
「続けて始め」　右足を後方に引き、左前屈立ちになり、両手刀を向き合わせて両手を伸ばし、両選手に向けて開く
「赤（白)、〇段〇突き（打ち・蹴り）技あり」
腕を胸位置から斜め下に腕を伸ばす（手のひらは前方に向ける）
「一本」　腕を腹部前から頭上へ垂直に伸ばす（ポイント数のカウントはしない）
「合わせて一本赤（白）の勝ち」
「それまで」は言わない
「相打ち」　甲を上に両拳を体の前で突き合わせる
「とりません」　開手した両手の手首を胸前で交差、手の甲を上にして両腕を斜め下に伸ばす
「副審集合」　両腕を前方に伸ばした後、両方の手の平を返して（自面）副審を呼ぶ
「あとしばらく」　終了３０秒前に両選手に宣告する（試合は止めない）
「判定」　「止め」⇒コート外に出る「判定」（長短笛）⇒主審も動作する⇒確認後旗を下げる（短笛）⇒コート内に入る⇒「〇〇の勝ち」（ポイント数カウントしない）
「引き分け」　開手した両手の手首を胸前で交差、手の平を上に返し、両腕を斜め下に伸ばす
「延長戦」　監査役に延長戦の許可を得てから「勝負一本始め」にて開始する
主審は勝敗コール終了後、選手を直ちに互いに立礼させてコート外へ下げ、自らもコート外に下がる。主審、選手はコート外に出たらコート内に向かって立礼する
（その他）　・場外と３０秒前（あとしばらく）が同時の場合、場外コールして「続けて始め」を宣言してから、「あとしばらく」を宣告する
・副審旗が２本上がった場合、(5 審制)
他の３本「見えません」⇒　取って良い
他の３本「取りません」⇒　取らない
・副審旗が１本上がった場合、該当副審に合図のみで試合を中断しなくてよい

副審　「技あり」　旗は真横に出し、笛「ピッ」と吹く
「一本」　旗を真上にあげる

「見えません」　顔の前で旗の先端を合わせる（交差させない）
「不十分」　両方の旗を交差させて、斜め下に 2 回開く（バッ、バッとゆっくり）
「罰則」　罰則を犯した方の選手の旗を 45 度の角度で前に出す（旗は回さない）
笛は「ピッ、ピッ、ピッ・・・」
「場外」　旗で床を 3 回叩く、笛は「罰則」と同じ（自分の近くだけジェスチャーすればよい）
「試合の中断が必要なとき」
笛を「ピッ、ピッ、ピッ・・・」
「判定」　主審が「判定」（長短笛）⇒副審旗上げる⇒主審（短笛）で、副審旗下す

（その他）・主審が「止め」をかけたとき、副審は「どちらかに技あり」「見えません」「取りません」の、何らかの意思表示をする
・椅子の背もたれに背中を付けない。
・旗動作は切れ良く。

≪ 形競技 ≫

選手服装　組手同様に規定以外の服装は失格とする。

試合形式　小学生以下はトーナメント制とし、赤、青（帯を赤・青にする・マイ帯ＯＫ）に分かれ、旗判定にて勝敗を決する。中学生以上は得点制とし、一人ずつ演武する。

試合方法
・演武する形は自由形とする。
・自由形とは、基本形、指定形、自由形の全てを指す。
・小学生以下は、準決勝戦までは赤、青の選手がコート内で同時に形を演武し、決勝戦は一人ずつ演武する。
・中学生以上は一人ずつ演武し、得点上位 4 名による決勝戦を行う。決勝戦での得点により順位を決定する。
・中学生以上のクラスは出場選手の人数が 4 名以下の場合、予選は行わず決勝戦のみとする。
・中学生以上は演武する形について、予選と決勝戦は同じ形を演武してはならない。
・コートの中に入った時点で判定対象とする。

勝敗の決定
・旗判定制は主審、副審による旗により、上がった旗の数が多い方が勝者となる。
・技の完成度を判定の基本とする。
・中学生以上は、主審（1 名）、副審（4 名）による採点方式とし、合計得点の高い選手より順位を決定する。
・得点は、最高及び最低得点を除く審判 3 名の合計得点とする。
・審判 3 名の合計が同点の場合は、審判 5 名の最低得点の高い選手を上位とする。
・上記において最低得点が同点の場合、審判 5 名の最高得点の高い方を上位とする。
・得点で順位が決まらない場合、審判 5 名の協議にて順位を決定する。

失格　・形名の申告間違い、形演武の中断、形の間違い（すり替え）があった場合、演武後に主審が副審を集めて失格とする。
・演武中に帯が外れて落ちてしまった場合は失格とする（目印のために付けた紐等が落ちた場合はこの限りではない）。

審判員　5 審制とする。（主審 1 名　副審 4 名　監査 1 名の 6 人制）。

主審　・主審は選手の形宣言の後、笛「ピッ」で開始。
・演武終了後、「判定、ピーッピッ」で旗判定を行い（黙ったまま旗を数えて勝敗確認）、「ピッ」の笛で旗を下ろす。
・「〇の勝ち」（座ったまま）と宣言し、勝者側の旗を上げる。
・失格宣告（不戦勝も同じ）は、赤が失格の場合、審議後、赤に旗を「取りません」の動作をした後「青の勝ち」と宣言をし、青旗を上げる。

副審　・旗は赤が外側になるように巻いて膝の上。
・旗を巻き解く際は両手で解く。（振り回して解かない）

選手　・両選手はコート外の各両端部から礼をして同時にコート内に入り開始線に立つ。（同時演武）
・決勝戦は、演武者はコート外中央部から礼をしてコート内に入り開始線に立つ。（個別演武）
・開始線に立ったら礼をして審判の指示を待つ。
・主審の指示により、赤から形名を宣言し構える。
・主審の笛の合図にて演武開始。
・演武が終わったら各自で礼をして回れ右、コートの外に出たらコート内に礼をして判定を待つ
・判定後、その場で主審に礼 ⇒ お互いに礼 ⇒ 回れ右をして下がる

判定材料について（順不同）

錬武会規定より

・技及び着眼等の正確性
・技の強弱、緩急及び全体の調和
・各々の技が持つ意味の的確な表現
・安定感、完成度、確実度
・難易度（難しい技が入っている、足技がある等）
※但し、ふらつきながらの難しい形と、確実で正確な易しい形との対戦の場合、正確さを優先する。
・コート入場後より、形演武ではない部分も見る（歩き方、礼の仕方、態度、形の名前の言い方、姿勢等）
・ふらつき程度（グラグラしてしまっているか、こらえることが出来ているか）
・自信を持って演武をしているか
・全体と細部の両方を見る（全体的な流れ、整い方、緩急のつけ方、力強さ、立ち方、足の力の入れ方、目線手の握り等）
・形により異なるが、開始戦に戻っているか
・メガネは原則的にかけてはならない（全国大会では眼鏡使用不可）。また、ヘアピンなど金物類、装飾品（ネイル等も含む）はすべて禁止、失格となる。
・息吹以外の過剰な効果音的な呼吸音および必要以上に道着を鳴らす行為は、減点対象となる。

・四股立ちなどで腰の高さが不自然に低すぎる場合は、有効加点しない（低ければ良いというものではない）

錬武会指定形

① クーシャンク一小
② 知花クーシャンク一
③ 城間チントウ
④ 松茂良ローハイ
⑤ ナイファンチ三段

改訂履歴

版数	改定日	承認
00	2015 年 4 月 1 日制定	2015 年 4 月 1 日
01	2019 年 4 月 1 日	2019 年 4 月 14 日総会
02	2023 年 4 月 1 日	2023 年 2 月 19 日常任理事会
03	2025 年 11 月 9 日	2025 年 11 月 9 日常任理事会
04	2026 年 10 月 11 日	2026 年 10 月 11 日常任理事会

別紙1

西日本防具付空手道選手権大会の注意事項等

●全般

- アンダーシャツは、男子は着用不可、女子は白色のシャツを着用 ⇒ やむをえない場合は個別対応とし、事前にコート長に許可をとること。
- 開始時刻に遅れた場合は失格とする。

●組手試合

- キッズはスーパーセーフ(または同等面)を使用し、上段への攻撃は可。
- 小学生1・2 年生以下はスーパーセーフ(または同等面)およびストロングマンの両方を使用可とする。
- キッズを除き、拳サポーターは指が出ない小手・グローブを使用する。 ただし軍手などのインナーグローブを使用して指を覆い隠す場合は使用可とする。
- 試合コートに使用防具を持参していない場合は失格とする。
- 小学5年生以上はファールカップを義務とする。(使用していなければ失格)
- 高校生、一般男女、団体戦は5審制、その他は3審制とする
- ストロングマン杯は、組手一般有段の部優勝者と一般有級の部優勝者および高校生の部優勝者の3名(男子の部)で行う。

●形試合

- 小学生の部は全て旗判定とし、決勝戦は一人ずつ演武する。
- 中学生以上の部は全て一人ずつ演武する点数制で行う。 予選上位4名にて決勝戦を行い、順位を決定する。 4位を敢闘賞とする。 ただし 4 名以下のクラスは予選を行わない。
- 中学生以上の部は予選と決勝戦は異なる形を演武しなければならない。
- 形試合での眼鏡の使用は不可 ⇒ 個別対応可とし、事前にコート長に許可をとる
- アクセサリーの使用は不可。(意匠性のあるネイル等も含む)
- 息吹以外の過剰な効果音的な呼吸音および必要以上に道着を鳴らす行為は、減点対象となる。

【形試合の入場要領／**2 名ずつ演武で旗判定の場合**】

① 選手は両コート角より礼をして入場する。
② 所定の位置にて礼をして、赤より形名を申告する。
③ 続いて青が形名を申告する。
④ 主審は座ったままで開始を告げる。
⑤ 演武の終わった選手より礼をして退場し適宜コート外にて待機。
⑥ 主審・副審は座ったままで判定する。
⑦ 審判員は主審の合図にて旗を揚げ、主審が赤青の旗の数を確認したら下げる。
⑧ 主審は上がった旗の数を確認し多い方を勝ちとする。
⑨ 主審の「〇〇の勝ち」のコールにて勝者が決定する。
⑩ 選手は正面に礼をして、お互いに礼をして最初の整列位置へ戻る。

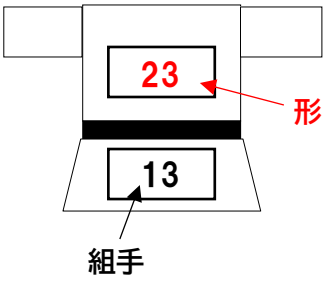
【形試合の入場要領／**得点制の場合**】

① 選手はコート中央より礼をして入場する。
② 所定の位置にて礼をして形名を申告する。
③ 主審は座ったままで開始を告げる。
④ 選手は演武が終わったら礼をして所定の位置で待機。
⑤ 審判員は主審の合図で得点板を揚げ、スタッフの得点読み上げ後、主審の合図にて下げる。
⑥ 選手は主審が「ただいまの得点〇.〇〇点」のコール後、正面に礼をして退場する。

別紙1

●ゼッケンについて

- ゼッケンは大会側より配布します。
- 配布されたゼッケンは、下記の通り道着に取り付けて下さい。
- 【ゼッケン番号の取り付け】
- 組手 ： 黒色 ・・・ 帯の下
- 形 ： 赤色 ・・・ 背中
- 組手と形のダブルエントリーの場合は、背中(形)と帯の下(組手)との両方に取り付ける。



●帯について

- 旗判定制の形の試合では、「赤」と「青」の帯を使用します。 帯は大会側で準備しますが、個人所有の帯を使用することも可です。 得点制の形試合は個人所有の帯を使用(赤、青帯も可)する。

●めがねについて

- 試合でのめがねの使用は原則不可ですが、必要な場合は事前にコート長の許可を得て下さい。許可なく使用の場合、失格となります。

●その他

- アクセサリーの使用は不可です。意匠性のあるネイル等も含みますのでご注意下さい。不明な場合は事前にお問い合わせ下さい。
- 他のお客様へのご迷惑となりますので、競技場(アリーナ)内以外での練習は不可です。

●駐車場について

- 駐車場は原則として志段味スポーツランド体育館北側の駐車場(P4 駐車場)に停めて下さい。

志段味スポーツランド HP　https://www.jpn-sports.com/shidami/access

以上

全日本空手道連盟錬武会　全国防具付空手道選手権大会　代表選抜規定

2026年10月13日改訂

愛知県および岐阜県の代表選手は下記方法A・Bにて強化選手を選出し、ABKF合同選考審査会での審査により代表選手を選考する。

1. 強化選手（代表候補）選考指定大会☆

強化選手候補者は下記大会より選考し、選考対象種目は「形」および「防具付組手」の全クラス（幼児、シニアを含む）とする。

① 愛知県知事杯　あいち空手道交流選手権大会（11月開催）

② ストロングマン杯　西日本防具付空手道選手権大会（2月開催）

A：指定大会において下記条件を満たした選手

① 形・防具付種目の各部門において、各クラスの入賞者を愛知県および岐阜県代表に向けた強化選手候補者として選抜（表1）し、入賞順位は代表権選考の優位性に反映する。

② 30人以上のクラスに出場したベスト8までの選手。

表1　選抜対象入賞者

4名以下	優勝者
5～15名	2位まで
16名以上	3位まで
30名以上	ベスト8まで
その他	敢闘賞（連盟推薦）

B：A以外の強化選手推薦

① 連盟推薦者：前年度の全国大会の入賞者、指定大会の敢闘賞獲得選手ほか、相当と認められた選手。

② 団体推薦者：各団体からの推薦選手（推薦人数は選考指定大会出場人数による）

③ 指定大会で試合が成立しないクラスの選手選考については都度協議とする。⇒ 連盟推薦

2. 代表権獲得までの流れ

① 強化選手登録申込書を提出し、強化選手登録料2,000円を納める。　⇒ **強化選手確定**

★強化選手は、以下の条件を全て満たしていなければならない。

※愛知県または岐阜県在住者であること。

※愛知県防具付空手道連盟（以下、ABKF）加盟団体、もしくは、ABKF協賛登録団体に所属していること。

または、ABKFに年間選手登録料2,000円（有段者の場合は＋錬武会登録費1,000円）を納めた個人登録選手であること。

（ABKF加盟団体、ABKF協賛団体に所属の選手は年間選手登録料は不要です）

※ABKF主催の合同強化練習（合宿を含む）に参加できること。

② 選考審査会での選抜審査により代表選手を選考する。

③ 代表権行使の意思の確認。（団体代表者が一覧で提出）　⇒ **代表選手確定**

3. 代表選手の防具について

① 代表選手は、個人持ち又は所属団体の錬武会指定防具を各自準備できること。（ストロングマン面・小手・胴）

② 防具については個人持ちが好ましいですが、ABKFより有償で貸し出しも可能です。